

令和3年度 県立筑波高等学校自己評価表

目指す学校像	豊かな人間性と職業観、勤労観を育て、「つくばね学」等を通して「地域に支えられ、地域を支える高校生の育成」を目指し、地方創生に貢献できる人財を輩出する学校	【実践目標】 正しい判断 自主的行動	【育てたい資質能力】 人間力 ① 他者とかかわり、協働する力 ② 自他を尊重し、思いやる心 ③ 粘り強くやり遂げる力
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>《成果》</p> <p>○学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」への工夫や筑波サポートタイム・一般常識ドリルの取組により、学習意欲の向上と基礎学力の定着が見られた。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> マナー指導の結果、服装や授業態度が向上した。 特別支援教育校内委員会を定期的に開催したり、校内研修で情報交換等を行った結果、個に応じた対応ができた。 <p>○進路指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 特進クラスの生徒を中心に、進学意欲が高まり自己の進路実現に必要な情報を積極的に入手する生徒が増えている。 進路ガイダンスを充実させることにより、主体的に進路選択する資質・能力の向上を図ることができた。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、実施可能な学校行事を通して、学校への帰属意識を高めることができた。 「つくばね学」を通して、地域や近隣の中学校と連携を深めることができた。 	<p>I 義務教育段階の学習内容の確実な定着と個に応じた発展的な学習の展開</p>	<p>① 主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、学校設定教科としての筑波サポートタイム(TST)やティーム・ティーチング、少人数授業の積極的な実施により、基礎基本の定着と学習意欲の向上を図る。</p> <p>② 生徒の進路実現に結びつく学力を育むため、授業の工夫や改善を図ることにより、授業を充実させる。</p> <p>③ 相互の授業参観や意見交換等を積極的に行い、個々の教員の授業力向上を図り、生徒の学習意欲を喚起する。</p>	B
	<p>II 生徒指導の充実</p>	<p>① 生徒や保護者に学校の指導方針を伝え、全職員が一体となり生徒指導を推進し、基本的な生活習慣の確立に努める。</p> <p>② 「マナーカード」及び「Shihou カード」を効果的に活用し、生徒の自己管理能力を育成する。0</p> <p>③ 人権尊重の精神を涵養するとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織として対応する。</p> <p>④ 教職員自らが人権感覚を身に付け、生徒理解に努め、生徒指導のスキルアップを図る。</p> <p>⑤ LD、ADHD や高機能自閉症などの発達障害への理解を深め、カウンセリング的な相談スキルを高めることで、生徒の自立を支援する。</p> <p>⑥ 部活動を通して責任感、自立心、忍耐力を養い、規範意識を基盤とした自主的活動ができるリーダー的な人材を育成し、学校活性化を図る。</p>	B
<p>《課題》</p> <p>○学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を喚起するためには、教員の授業力を向上させることが不可欠であり、校内研修を充実させる必要がある。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員で共通理解を図り、頭髪服装指導を徹底する必要がある。 遅刻者数が増加しているため、生徒の意識を改革 	<p>III キャリア教育の充実</p>	<p>① 自己の進路適性理解に向けた進路講演会、進路関係教材等の利用、「進路の手引き」を活用したLHRを計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。</p> <p>② 希望制によるインターンシップ及び「つくばね学」を2年生で実施するとともに、3年生では「つくばね学探求」も実施し、また、「キャリア・パスポート」の活用をすすめることによりキャリア教育を一層推進する。</p> <p>③ 先を見通した体系的な進路指導を行うとともに、保護者へ進路情報を積極的に提供し、進路実現に向けての取り組みへの理解と協力を得る。</p> <p>④ 各大学、短大との連携を積極的に行い、進学実績の向上を図る。また、引き続き就職内定率100%を維持できるよう、就職指導を充実する。</p>	A

し、基本的な生活習慣を確立することが課題である。 ○進路指導 ・就職希望者に外部機関の協力を得て、働く意義や社会人としてのマナーを身につけさせる機会を増やす。 ・進学意識を高めるために、上級学校からの情報を精選し、各学年に分かりやすく解説できる機会を創出する必要がある。 ○その他 ・1年生の部活動加入率を高め、自主的活動ができる人材を育成する。		IV 地域や異校種との連携	① 地元の風土や自然及び地域の教育力を生かす「つくばね学」「つくばね学探求」をさらに充実させ、2年生及び3年生全員による地域や筑波学院大学と連携した体験的な学習活動を実施し、生徒の「人間力」の向上を目指す。 ② 地域の義務教育学校や筑波大学との連携を図り、百人一首大会等の伝統行事を行うことで、生徒に愛校心や郷土愛を醸成し、地域を担う人材の育成に努める。 ③ 中学校と緊密に情報交換を行うことにより、信頼関係を構築する。 ④ つくば市との連携を積極的に図り、地域に根ざした高校として地域に貢献する。	B	
		V 働き方改革の実現	① 「きんむくん」の活用により、教職員自らの働き方改革について意識の向上を図る。 ② 教育的効果を低減させずに、学校行事や会議・打ち合わせ等業務の精選、実施方法の改善を図る。		
三つの方針		具体的目標	評価	次年度（学期）への主な課題	
「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）		○人間力（①他者とのかかわり、協働する力 ②自他を尊重し、思いやる心 ③粘り強くやり遂げる力）を培い、地方創生に貢献できる人財の育成	B	B	つくばね学を柱として、授業等の教育活動全体で取り組む目標の設定
教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）		○個に応じたきめ細かな学習指導を徹底するとともに大学等との連携を図るなど、生徒の学習への興味関心を引き出し、多様なニーズに対応したキャリア教育による進路希望実現	A		教育活動のビジョンを学校害の関係者・諸機関と共有するための体制構築
「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）		○学校や社会の規範を守って日常生活の中で実践し、学校生活に積極的に取り組む意欲のある生徒	B		学校が期待する生徒像の理解を広めるため、中学校訪問や地域への広報活動の充実
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	生徒の実態に応じた授業を展開するとともに、基礎学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現を目指すという視点から授業改善を行い、筑波サポートタイム、少人数授業やTTの実施等によって、生徒の基礎学力の向上を図る。 I①	B	B	ICTを活用した授業を継続して実施する。
		個々の教員の授業力の向上を図ることで、生徒の学習意欲を喚起する。 I②	A		
		生徒にとって分かる授業を目指して、教材や授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。 I②③	B		
教科語	基礎学力の向上を図る。	TTの授業を実践することで、生徒の多様な状況に対してきめ細やかな指導をして学習意欲を喚起する。 I①	A	B	・ICT等を活用し、生徒の個々の実態に応じた授業方法の工夫・改善を図る。 ・長期休業中の課外や平常課外に取り組む意欲を高める教材・指導方法の工夫に努める。 ・進学希望者対象の個別の小論文指導を計画的に行う。
		高校生としての基礎的な漢字と言葉を繰り返し学習することにより、語彙力を豊かにさせ、基礎学力の定着を図る。 I①	B		
		教科内での話し合いや、研修などでの情報を共有することで、評価方法の見直しや教材の開発・工夫に努める。 I②③			

	進学可能な学力の養成を図る。	進学希望者に対して平常課外や長期休業中の課外授業を実施し、進学に対応できる実力をつけさせる。 I②③	B		<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定に向けた学習を取り入れ、合格への意欲を高める。 古典の知識をさらに深め、古典に関心を持たせる教材・授業方法を工夫する。
	漢字検定の合格率の向上を目指す。	小テストや問題演習を行い実力養成に努め、全体で3級以上25人程度の合格を目指す。 I②	A		
	進路に応じた表現指導を強化する。	作文や小論文などの文章を書くことを通して、自分自身に対する理解を深める。 I②③	A		
	古典に関心を持たせるように指導法を研究する。	文章を書くことを通して、自己の意志や考えを的確に表現する力を養う。 I②③	B		
		基礎的な古典の知識を身につけさせ、古典に親しむ態度を身につけさせる。 I①②	B		
		百人一首大会という学校行事を通し、古典への興味・関心を高めるための工夫を図る。 I①②	A		
地理歴史	基礎学力の向上を図る。	歴史的用語・地理的用語の意味と正しい標記が出来るように繰り返し指導を行う。 I①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 教材等を工夫し、知識の定着及び関心が向上する工夫を展開していく。 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、ICTを活用し、生徒が授業に意欲的に取り組めるように工夫する。 提出物の提出率の向上を目指す。
		学力不振者に対して定期的な補習等を行う。 I①	A		
	よりよい指導方法を探求する。	授業展開や教材の活用法などについて定期的な話し合いをもち、工夫や改善を図る。 I②	B		
		生徒に対する情報交換、また授業内容について教材の共有化など意見交換を行う。 I②	B		
	課外の充実を図る。	定期的な課外や個別指導によって進学に向けて一層の学力の定着化を図る。 I③	A		
	定期的なノートやプリントを提出させることで授業への参加の喚起を図る。 I②	A			
	評価方法をはじめ改善に努める。	日常における生徒の状況を把握し、担任等とのこまめな連絡を行う。 I②	A		
公民	基礎学力の向上を図る。	現代社会の用語の意味を説明し、理解できるようにする。 I①	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 主権者教育について、意味・意義を理解させ、社会参画への意識を確立できるようにする。 主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図り、ICTを活用し、生徒が授業に意欲的に取り組めるように工夫する。 提出物の提出率の向上を目指す。
		新聞やインターネットを利用し、現代社会の政治や経済に関心を持たせる指導を行い、主権者意識を高める。 I②	B		
		学力不振者に対して定期的に補習等を実施する。 I①	A		
	よりよい指導方法を探求する。	観点別評価や効果的な授業展開について話し合いを行い、工夫や改善を図る。 I②	B		
		生徒に対する情報交換や授業展開の問題点・改善点について意見交換を行う。 I②	B		
	総合的な評価方法に努める。	定期的なノートや課題等を提出させ、点検を実施する。 I④	A		
		日常の生徒の授業中の様子や出席状況について把握し、こまめに担任との連絡を図る。 I①	A		
数学	基礎学力の定着・向上を図る。	細やかな机間巡視、理解度に合わせた課題の提示を通して、個に応じた学力の向上を図る。 I①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の整備、教材の精選を行い、教科全体で基礎学力の確実な定着を目指す。 主体的・対話的で深い学びの観点から、ペアワークやGoogleアプリの活用による授業を展開する。
		学力不振者に対して補習を実施するなど、履修内容の確実な定着を図る。 I①	A		
		長期休業中には基礎事項を中心とした課題を課すことで、既習内容の復習を行う機会を設ける。 I①	B		
		1学年は『筑波サポートタイム』を通して基礎学力の定着を図る。 I①	A		
	個の進路希望に応じた学習指導を実施する。	進学希望の生徒には少人数クラスで受験に向けた指導を、就職希望の生徒には一般常識など就職試験に合わせた内容を扱った指導を行うことで、個の進路希望に応じた学習指導を実施する。 I②	B		
授業の工夫改善を図る。	教科内で授業参観を行い、教材の内容や活用法を検討することで、授業の工夫改善を図る。 I③	B			

理科	個別指導の充実と成績不振者の減少	定期考査の結果をもとに理解の不十分な生徒に対する個別指導を充実する。	I①	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教科内研修会を充実させ、生徒の実態に対応した授業を展開する。 ・実験の充実やICT教材の活用に努める。 ・大学受験者に対して個別指導を行い、進路実現に向けてサポートしていく。
	学習意欲の喚起と基礎学力の向上	机間指導、ノートやプリントの点検、授業態度の観察およびマナーカードの適切な使用を通じて授業に臨む態度の育成に努める。	I①	A		
		ICT機器の利用やプリントの工夫を通じて分かる授業の展開に努めるとともに、授業の改善方法について教科内で意見交換を行う。	I③	B		
	入試に対応できる学力の育成に努める	進路希望に応じて課外授業を設け、少人数指導を行う。	I②	A		
体育健	体力の向上及び規範意識の向上。	運動の合理的・計画的な実践を通して、各運動の楽しさやこころよさを味わいながら、体力や運動技能を向上させる。また、服装面の指導を通して規範意識の向上や安全についての知識を身に付ける。	I① II③	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的に授業へ参加する態度の育成については大きく改善したが、体力は低下傾向である。授業内での体力向上の取り組みが課題となっている。 ・各種運動を通じて、生徒の運動能力の向上に努める。また、保健の授業を通して、健康管理について指導していく。 ・運動習慣を身に付けるような働きかけを通して、日常生活での運動時間を増やす取り組みを行う。
	生涯にわたって運動に親しむ資質の向上を図る。	各種運動を仲間と主体的に実践することを通して自分の得意な運動種目を見つけたり、体育理論を通じて生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力の育成を図る。	I①	B		
	生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していく活力ある人材の育成。	生活習慣や交通安全、社会生活と健康等について、知識の定着を図る。また、生涯を通じて自らの健康について考え、適切に管理し改善していく思考力や判断力を育成する。1週間の中で3時間以上運動している人が80%以上になるようにする。	I①	B		
芸術	基礎的な知識の定着を図るとともに表現・鑑賞の能力を高める。	教材を精選し、小テスト等を取り入れながら、基礎力を育成する。	I①	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業の工夫を行う。 ・興味・関心を高め、わかる授業の展開について、引き続き検討する。
		個々の能力に応じたきめ細かな指導を工夫する。	I①	A		
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	自己研鑽に努め芸術的資質を高める。	I①	A		
		芸術に対する興味・関心を高めよさや美しさを味わいながら主体的に活動する態度の育成に努める。	I②	B		
英語	生徒の基礎学力を向上させる。またできる生徒には応用力をつけさせるようにする。	生徒アンケートで「意欲的に取り組んでいる」生徒の割合を70パーセント以上にする。	I②	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な内容の徹底を目指し、演習を通して、中学校段階の内容の確実な定着を図る。 ・生徒の主体性を引き出す授業内容、展開を研究し、実用英語など、資格取得にも役立つ授業研究を行う。 ・英語に対して苦手意識を持つ
		分割授業や小テストなどを通して基礎的な英語力をつけさせるようにする。	I①	A		
		定期テストなどの各テストの結果を利用して、不十分な生徒には補習を実施する。	I①	A		
	生徒にプリントなどの提出状況を知らせる事により、学習への動機付けを図る。	I②	A			
	家庭学習を定着させるため、自主学習を推奨する。	I①	A			
	資格取得を目指す積極性を養う。	進学を目指す生徒に、進学課外を通じて応用力をつけさせる。	I③	B		
英検3級合格者10人を目指すため、英検の問題等を授業に取り入れるようにする。		I②	A			

		英語が分かる喜びを実感できるような授業を展開できるように努める。	生徒の学力に応じた教材作成に努める。 I①	A		生徒も、意欲的に授業に取り組めるような授業改善を図る。 ・主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善を図るとともに、4技能のバランスが取れた育成を目指す。
			各種研修会に積極的に出席することによって、自己研鑽に努める。 I②	B		
		観点別評価の工夫改善に努める。	ALTを効果的に活用することにより、コミュニケーションする態度を養えるような授業を展開する。 I②	B		
			定期考査の点数だけでなく提出物や授業態度なども含めた多方面からの評価に努める。 I②	A		
			学習到達目標を見通して、作成したCan-doリストにより、さらに良い評価方法を目指す。そのために教科内の話し合いを十分に持つ。 I②	B		
家庭		基礎的・基本的な知識の定着を図る。	調べ学習や視聴覚教材などを活用して興味・関心を持たせるとともに、学習効果の向上を図る。 I①	A	B	・効果的にICTを活用し、基礎技術の習得や定着を図る。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業改善を図るとともに教材を工夫する。
			プリント学習や小テストを実施して、基礎的な知識を定着させる。 I①	A		
	生活の充実・向上を図る能力と実践的態度を育てる。	実習を通して社会に貢献できる技術や、家庭生活の質を向上させるための技術を身に付けさせる。 I②	B			
情報		情報の表現を工夫する。	収集、加工した情報をさまざまな工夫で表現する。 I③	B	B	・ICTを活用した授業を行うことの必要性。
		情報の有用性を理解させる。	情報を収集、処理、判断させる能力を身に付けさせる。 I②	A		
商業		情報機器の基本操作の習熟。	コンピュータの基本操作と、キーボード操作の習熟を目指す。 I①	A	A	・コンピュータの機能と基本的操作を身に付けさせるために基礎基本学習を徹底して行うことの必要性。
		情報処理能力を高める。	基本的処理、書類作成、判断能力を育成する。 I①	B		
		資格取得の奨励に努める。	各自の能力に応じて資格取得を目指す。 I③	A		
教務		生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、基礎学力の確実な定着を図るとともに、個に応じた発展的な学習を展開する。	全校統一の基礎学力診断テストや学びの基礎診断、性格検査等を実施したり、特別支援教育校内委員会等の組織と連携を密にしたりしながら、生徒の正確な実態把握に努め、教員が指導の工夫・充実を図れるような取り組みをする。 I②③	B	B	・ICTを活用した授業の展開の継続、計画的な研修会や校内参観の実施をしていく。 ・少ない人員でも、業務を精選しかつITを活用しながら任務をこなしていきたい。 ・ICT活用・少人数制・TT駆使し主体的対話的で深い学びの実現を目指した授業を展開する。
			筑波サポートタイム(TST)の実施方法を改善し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。 I①	B		
			少人数授業等を実施するにあたり、教員・教室の確保や円滑な授業の実施に努める。 I①	B		
			指導と評価の一体化に努め、多様な観点から評価に取り組めるようにする。 I③	B		
			校内における授業研究や対外的な授業公開を行い、主体的・対話的で深い学びの実現を図るための指導方法の工夫と改善をとおして、相互に授業力を高め合う環境を整える。 I②	A		
			外部の意見も参考にし、生徒の学力や進路希望に応じた、より適切な教科書選択が行えるようにする。 I③	B		
	校内研修の充実を図る。	各種研修会等で得た情報の共有化を図るために、校内研修会を実施する。 I②	A			
教材の共有化や効果的な副教材の選択の仕方など、教科内での話し合いを推進する。 I②		A				

	生徒の学習意欲の喚起に努める。	生徒の能力に応じて、習熟度別や少人数、ティーム・ティーチングの授業を行ったり、ICTを活用した授業を行ったりするなど、教え方や教材の工夫をする。	I①	B		
	成績不振者に対する指導を厚く行う。	生徒の実態把握のために学年会、拡大学年會等、情報交換の場を適切に設ける。	I②	B		
	成績処理や事務処理の効率化を図る。	学年・教科と連携をとり、成績不振者を減らすため、定期的に補習授業を実施する。	I①	A		
	成績処理や事務処理の効率化を図る。	ITを効果的に活用し、定期考査の成績処理や事務処理の効率化を図る。	I②	A		
	図書館利用の活発化を図る。	ほぼ毎日開館し、季節に合わせた館内の装飾や、新着図書の実と整備に努める。	I③	B	B	コロナ禍で文学散歩など行事をいかに計画していくかが課題である。
	図書館利用の活発化を図る。	図書館便りの発行や新着本案内の掲示をし、図書の広報活動に努める。	I③	A		
	PTA活動の活性化を図る。	PTA役員と学校との連携を密にする。	II①、IV④	B		
	PTA活動の活性化を図る。	PTA総会および支部総会等、PTA関連行事の活性化を図る（PTA総会出欠通知回収80%を目指す）とともに、保護者に対して学校の教育活動について理解を求める。	III③	B	B	コロナ禍でも保護者との連携をいかに深めていけるかが課題である。
進路指導	進路実現のためのキャリア教育を円滑に行う。	キャリア教育を踏まえたうえで、各学年ごとの目標に応じた行事をスムーズに実施するためのサポートを行う。	III①	A		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒減数、教員減の中で、放課後や休業中の課外授業について検討をする。 ・来客対応におけるヒアリングシートをタブレットで行い、情報収集と共有の効率を高める。 ・「先輩の話を聞く会」をコロナの感染状況を見極めながら、本校卒業後、3年以内の卒業生に声をかけ実施する。
	進路実現のためのキャリア教育を円滑に行う。	進路ガイダンスやバス見学会等の実施により、自分の進路を意識付けできる機会を増やす。	III①	A		
	進路意識を高め、進路実現に必要な自己力を身につけさせる。	進路の手引きを発行し、情報発信を積極的に行い、キャリア教育の充実をはかる。	III③	A		
	進路意識を高め、進路実現に必要な自己力を身につけさせる。	外部講師の講話や大学からの出前授業、先輩の話を聞く会及びキャリア・パスポートの活用等を通じて、自分の進路を考え、進路意識を高める方策を考える。	III①④	B		
	進路意識を高め、進路実現に必要な自己力を身につけさせる。	希望制によるインターシップやつくばね学との連携等によって、進路に対する意識を高めるとともに自ら学び、考える姿勢を身につけさせる。	III④	A		
	進路意識を高め、進路実現に必要な自己力を身につけさせる。	教員による企業訪問やインターンシップ、さらには企業や上級学校からの来校者との情報交換を密にすることで、受け入れ先の開拓や本校への理解が深まるように説明し、企業がもつめる人材となるよう、進路学習の指導方法を考える。	III②	A		
	進路実現のために、それぞれの進路に応じた工夫や指導を行う。	安定した求人確保のために、定期的なハローワーク訪問と連携をとり、また企業の新規開拓や定期的な訪問を行い、本校の取り組みの一層の理解を図る。	III③	A		
	進路実現のために、それぞれの進路に応じた工夫や指導を行う。	「未来タイム」、学習セミナーの充実をはかり、また教員研修会等の実施で効果的な指導方法の研究に努める。	III③	A		
	進路実現のために、それぞれの進路に応じた工夫や指導を行う。	他校の実践の情報収集に務める、情報を精査して本校生徒の実情に見合った情報を発信する。充実した進路指導体制を築き上げることにより、進路決定率100%、大学・短大・看護系進学者10名を目指す。	III③	B		

生徒指導	学校行事、委員会活動を通して帰属意識、協調性、責任感を養う。	学校行事の意義を全生徒に十分理解させるとともに、行事不参加者への指導を引き続き実施する。各行事ごとの生徒参加率を分析し、参加率95%以上を維持する。また、各行事ごとに生徒に振り返りを行わせ、反省の中に「楽しかった」という感想を持つ生徒の数を増やす。 II⑦	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の役割分担を確立し、円滑に運営できる体制作りを行い、コロナによる影響を踏まえ実施方法の工夫改善を図る。 ・リーダーとしての資質をもつ生徒の育成を図る。リーダー研修会の実施など、新たな取組を行う。 ・部活動加入者が減少しているため、対策を講じる研修会を実施する。
		各種委員会の活動計画を作成し、年間を通して委員会活動を充実させる。生徒に社会的役割を果たす意義を理解させる。 II⑦	B		
		体育祭や百人一首大会、野球応援では、特別委員会を設ける。特別委員会では生徒の自主運営を通して行事が充実するようサポートする。歩く会や百人一首大会といった伝統行事に参加を通して愛校心を育む。また、地域の小学生や大学生との交流などを通して地域への関心を高める。 IV①	B		
	部活動への積極的な参加とその継続を図る。	多くの生徒に部活動加入を勧め、部活動加入率50%以上を目指す。 II⑦	B		
		継続率を高めるために、各部活動を全面的に支援し、試合結果の掲示や作品展示を企画する。 II⑦	B		
	基本的な生活習慣の確立とマナーやモラルの向上を図る。	登校指導や下校指導、昼休みの巡回指導、授業中の巡回指導等を計画的に行い、遅刻を減らし、服装や生活面の改善を図る。 II①	B		
		「マナーカード」の効果的活用及び、指導方法向上のための校内研修等により、職員の共通理解と共通実践を図り、職員が一体となって生徒指導を推進する。マナーカード発行枚数について対前年比20%減を目指す。 II②③	B		
	生徒理解と問題行動の未然防止に努める。	校内研修等を行い、各校務部と連携しながら発達障害への理解を深め、生徒の自立を支援するとともに、問題行動の未然防止と問題行動への対応を図る。 II⑥	A		
		生徒指導ガイドラインやいじめ防止基本方針の概要等の学校の指導方針を、生徒や保護者に伝え、全職員が一体となって生徒指導を推進し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を行う。 II①④	A		
	地域社会及び関係機関と連携し、交通安全と生活安全の啓発に努める。	中学校や近隣の警察署及び交番と緊密な連携を図り、情報交換を行い、交通安全講話、防犯教室、薬物乱用防止教室等の学校行事に協力を依頼し、生徒の問題行動の防止や学校生活の安全を図る。 IV②	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の涵養を図り、公共の場でのマナー向上を目指す。 ・生徒指導の方針や基準を明確化、具体化した生徒指導の充実を図る。 ・マナーカード指導のための校内研修を積極的に行い、職員の共通理解と共通実践を目指す。 ・いじめ防止対策会議を中心に平素から生徒の動向に注力し、いじめの未然防止、早期発見に努める。
保健厚生	学校安全に努める。	感染症予防を通して、新しい生活様式を身に付けさせる。 II①②	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策に迅速に対応する。 ・生徒数や教員数減の中でも、安全点検を兼ねた清掃活動、各種健康診断、防災訓練等の実施方法を工夫し、学習環境の整備や学校安全の充実を図る。 ・スクールカウンセラー・学期始めアンケート等で得た生徒
		清掃分担の割り当て方法を工夫し、安全点検を兼ねての清掃指導を徹底する。それによりよりよい学習環境を目指す。 II①②	A		
		訓練を通して防災意識の高揚を図るとともに、非常時に適切な行動がとれるようにする。 II②	A		
	教育相談の充実を図る。	教育活動の中から些細な生徒の変化をつかみ、共有し、スクールカウンセラーに繋げる。 II③④	A		
		発達障害の有無に関わらず、支援を要する生徒の把握に努め、特別支援教育校内委員会と連携して特別支援教育の充実を図る。 II⑤	A		
教育相談に関する研修会を実施する。 II④	B				

	健康課題の解決に努める。	定期健康診断の結果を全員に配付し、自分の健康課題を見つける。精密検査の必要な生徒には、個別面談時に保護者に直接渡す。 II①②	A		情報をもとに、きめ細かな生徒支援にあたる。
		保健室の利用状況を提示することにより教員間で情報を共有し、生徒理解の一助とする。 II④	A		
第一学年	正しい身だしなみや基本的な生活習慣の確立を図る。	校外での挨拶を励行し、社会性を高め、豊かな情操を養う。 IV①②	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントやノート、ワークの提出率の向上。 ・学年をまたいだ生徒指導の連携。 ・多動の生徒への対処。 ・タブレットを使用した授業のさらなる推進。
		清掃活動等を通して生徒の責任感を育成し、奉仕の心を養う。 IV①②	A		
		生徒に規則正しい生活習慣が身に付けさせ、欠席・遅刻・早退を減らすように適宜指導する。 III①②	A		
		不登校の生徒については、保護者と連絡を密にし、生徒にとって最善の方法を考える。 IV③	A		
		服装・頭髪の指導を通して、身だしなみを正し、社会の常識を身に付けさせる。 III①②	A		
		生徒の観察や面談等を通じて、生徒理解に努め、保護者との連絡を密にして、問題行動を事前に防ぐ。 III①②	A		
	一人一人の能力を把握し、個々に応じた学習指導を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	授業に臨む態度を養い、生徒の実態に応じた授業展開を工夫し、学習意欲を喚起する。 I②	A		
		筑波サポートタイムを活用し、基礎的学習事項の定着を図る。 I①	A		
		進学課外を実施して、個々の進路希望に応じた幅広い学習ができるように努める。 I③	A		
		成績不振の生徒には個別に対応し、家庭とも連携しながら苦手科目の克服を目指す。 I①	A		
自己実現に向けた進路指導を行う。	進路ガイダンス等を通して、望ましい職業観・進路意識の育成を図る。 II①②	A			
	体験学習を実施し、将来の自己実現に向けて、個々の目標を持たせる。 II②	A			
第二学年	基本的な生活習慣を養い、落ち着いた学校生活を送らせる。	欠席・遅刻・早退の減少および連絡の徹底を促す中で、家庭との連絡を密にし、協力しながら、規則正しい生活習慣が身に付くよう指導し、基本的な生活習慣の確立を図る。 II①	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を目標とした、一般常識、基礎学力の定着。 ・望まれる社会人、成人として卒業を迎えられるよう、校則を遵守できる態度の育成。 ・進路実現および決定に向けた指導。
		頭髪・服装指導を通して、校則を遵守する態度を育成する。 II①	B		
		マナーとモラルを尊重し、「正しい判断」及び「自主的行動」ができる生徒の育成を目指す。 II②	A		
		生徒との面談を適宜実施し生徒理解に努め、生徒の豊かな心を育むとともに、いじめを始めとする問題行動を未然に防ぐ。 II③	A		
	基礎学力の向上に努め、学習に取り組む環境づくりに努める。	学び直しの取り組みを継続し、基礎学力の定着を図るとともに、小テストや一般常識テストなどを活用し、基礎知識や幅広い教養を身に付けさせる。 I①	B		
		課題や提出物の指導を通して、授業に主体的に取り組む態度を育成する。 I①	A		
		成績不振の生徒や、学習に困難を抱える生徒に対して、家庭との連携を密にしながら学習習慣の定着や、基礎学力の向上を目指す。 I①、II⑤	A		
	「つくばね学」やキャリア・パスポートを有効に活用し、生徒の進路実現を目指した学力の養成に努めるとともに、	基礎学力の向上と、生徒一人一人の進路実現を目指した授業の工夫や改善などに努める。 I②	A		
		第2・3学年で実施する「つくばね学」と、希望制によるインターシップを通して、生徒に将来の目標を持たせ、望ましい勤労観・職業観を育成し、進路意識の醸成を図る。 III②	A		
		「つくばね学」を通じて職業観を身につけさせるとともに、社会人として備えるべき資質・能力を育成し、自己実現や進路実現のための知識の育成を目指す。 III①	A		

	キャリア教育の充実に努める。	歩く会や「つくばね学」を通して、地域の風土や自然を学び、地域の人とふれ合うことで、生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。 IV①	B	
		個別面談・進路ガイダンス・バス見学会等を実施し、学習意欲と進路意識を高める。 II①③	A	
		特進クラスでは、平常課外・模擬試験・夏季セミナー等を活用しながら、進路希望に応じた学力の向上を図り、進路実現を目指す。 I③	A	
		就職希望者には、個々の適性に応じた将来の目標を持てるよう個別に指導する。 III④	A	
第三学年	立派な社会の構成員となれるよう基本的生活習慣を養う。	欠席・遅刻・早退について対前年比5%減を目指し、生徒に規則正しい生活習慣が身に付くように適宜指導する。 II①	A	A
		服装や頭髪指導を実施し、校則を遵守する態度を育成し、徹底に努める。 II①	B	
		カウンセリングを活用し、家庭と連携を密にするなどして、問題行動の防止に努める。 II⑤	A	
	学校行事や学習に積極的に取り組む態度を育成する。	小テストや常識テストなどを活用し、基礎学力のさらなる向上に努める。 I②	B	
		歩く会、体育祭、百人一首大会などの学校行事に積極的に参加させ、有意義な学校生活を送らせる。 II⑦	A	
		英語検定、漢字検定、数学検定、全商ビジネス文書実務検定、文書デザイン検定、情報処理検定等の資格取得を奨励するとともに、主体的対話的活動を通じて言語力を高める。 III③	B	
		成績不振者に対しては、家庭との連絡を密にし、進路実現や卒業を目標に支援する。 III③	A	
		総合の時間やLHR、進路ガイダンスや面接指導など、生徒の実態や希望に応じた進路計画を立てる。 III①	A	
	生徒一人一人の進路希望実現に取り組む。	課外や適性検査などを実施し、必要に応じて生徒や保護者と面談をするなどして、一人一人に合った進路指導の充実に目指す。 III③	A	
		進路意識を高め、生徒一人一人の進路希望が達成できるよう努め、進路先決定率95%以上を目標とする。特に就職については、内定率100%の継続を目指す。 III④	A	
		進路ガイダンス、学校説明会やオープンキャンパス、職場見学などに積極的に参加させ、進路希望の実現を目指す。 III④	B	
		つくばね学を継続・発展させた「つくばね学探求」をB類型全体で実施し、地域と連携した体験的な学習活動や一年間の実習の成果を発表する報告会を通じて、「生きる力」を育成する。 III②	A	
IV①				

※評価基準： A：目標が十分に達成された（達成度80%以上） B：ある程度成果が見られた（達成度60%以上） C：取り組んだ（達成度40%以上）

D：課題を残した（達成度20%以上） E：取り組むことができなかった（達成度20%未満）